

世界防災フォーラム 2025 において災害レジリエンス共創センターセッションを開催しました (2025/3/7)

テーマ：壊滅的災害からの復興と巨大災害への備え
会場：仙台国際センター（仙台市）

2025年3月7日（金）～9日（日）にわたって開催された世界防災フォーラム2025において、災害レジリエンス共創センターセッション「壊滅的災害からの復興と巨大災害への備え」を開催しました。環太平洋火山帯に住む私たちにとって、人間と社会のレジリエンスを構築することは極めて重要です。フィリピン、オーストラリア、日本から災害科学、健康、コミュニティレジリエンス、政策立案の専門家を招き、過去の壊滅的災害からの復興経験から、予想される巨大災害への備えの考え方を共有することを目的として開催されました。

江川新一教授（センター長・ヒューマンレジリエンス研究領域長）からセッションの主旨についての説明ののちに、フィリピン保健省から「災害の健康面：巨大災害に備えたよりよい復興」、フィリピン科学技術省から「レジリエンスのための科学」、オーストラリアのモナーシュ大学から「備えのための復旧の強化：きわめて重要なリハビリテーションの意義」、前防災科学技術研究所理事長の林春男氏から「日本における壊滅的災害からの復興と巨大災害への備え」と題して発表がありました。

発表後には、災害科学国際研究所の越村俊一教授（副センター長・災害レジリエンス数量化研究領域長）、奥村誠教授（災害情報キュレーション研究領域長）も加えたパネルディスカッションが行われ、これまでの経験から予測される巨大に災害に対してどのように備えるべきかの議論がなされました。さまざまなハザードによる災害に対して人々の健康を中心に据えた防災の重要性、科学技術が被災地の現場で、すべての住民と対応・支援者にとって使いやすく意味のあるものでなければいけないこと、保健医療と防災のセクターが協働すること、最終的に目指すべきなのは生活再建であり、そのために何をすべきかということ、災害レジリエンスを数量化することの重要性などが改めて強調されました。

本セッションは、200名近いみなさまにご参加いただきました。多様かつ激甚化する災害が避けては通れないなかで、喫緊の課題として巨大災害に対する社会のレジリエンスのあり方を共有する意義ある機会となりました。

文責：江川新一（災害レジリエンス共創センター）

（次頁へつづく）



フィリピン保健省
 Bernadette Velasco 健康危機管理部長



フィリピン科学技術省
 Renato Solidum 大臣



オーストラリア モナーシュ大学
 Jonathan Abrahams 准教授



京都大学
 林春男名誉教授



パネルディスカッション



栗山進一当研究所長による総括



発表者の集合写真